

SYLLABUS

2023 年度 春学期

教職課程

青森公立大学

経営経済学部

目 次

年次	授業科目名	単位	区分	担当	ページ
1	教職概論	②	必修	渡部 靖之	1
	教育心理学	②	必修	鈴木 郁生	4
	健康とスポーツ I	①	必修	今村 秀司	7
2	教育行政論	②	必修	内海 隆	9
	特別活動指導法	①	必修	友田 博文	12
	憲法概論	②	必修	高橋 基樹	15
3	教育方法論	②	必修	鈴木 郁生	18
	進路指導の理論と方法	②	必修	渡部 靖之	21
	中等教科教育法（商業 I）	②	必修 （商業）	砂場 孝一郎	24
	商業実習	④	必修 （商業）	砂場 孝一郎	27
	中等教科教育法（公民 I）	②	必修 （公民）	長谷川 光治	31
4	教育実習事前事後指導	①	必修	内海 隆	33
				鈴木 郁生	
	教育実習	②	必修	内海 隆	35
				鈴木 郁生	

〔科目名〕 教職概論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教職課程(必修科目)
〔担当者〕 渡部 靖之	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の講義で連絡する 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義及び演習
〔科目の概要〕 前半では、「教育」、「学習」とは何かという基本的概念を踏まえ、「学校」の役割と機能について、法制上の規定と現代の学校の現状を照らし合わせながら理解する。その上で、「教員」の社会的存在意義や求められる資質能力について、討論も含めて考える。また、教育養成制度についても理解する。 後半では、キャリア教育、人権教育・学習、環境教育、情報リテラシー教育、国際理解教育など様々な現代的な課題に係る教育について、テーマごとに考え方、指導方法について解き明かしていく。 全編を通して、クリティカル・シンキングの考え方に基づき、主体的に考えお互いに意見を交わすことにより、教員あるいは社会人として必要な能力を身に付けることを目指す。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 社会の大きな転換点を迎えている現代において、生涯を通じた教育・学習の必要性がますます高まっていると言える。その中で、「学校」の存在意義、そしてそこで教育に携わる「教員」という職業の持つ特性、意義、専門性等について学ぶことは、教員を目指す者にとって避けては通れないものである。 本講義では、他の教職科目の内容とも整合性を取りつつ、広く他面的な視点から学校や教職について理解することにより、教育の専門家にふさわしい職業能力の育成を目指すものである。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1 教育・学習の持つ本来の意味を理解している。 2 学校の社会的存在意義と人間の生涯における位置づけについて理解している。 3 教職の特性、専門性に関する法的規定を理解している。 4 現在の学校における諸問題や今後取り組むべき課題を知り、その解決・達成に向けた具体的方策と手段を理解している。 5 教員としての資質・能力を身に付けている。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 —		
〔教科書〕 使用しない		
〔指定図書〕 使用しない		
〔参考書〕 講義の中で適宜紹介する		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎時、独自に作成する講義テキスト(簡易なレポート含む)を提出すること。 評価は、講義テキストの提出状況、記載内容及び試験(レポート)の結果を踏まえて行う。 欠席が全講義回数の1/3を超える場合は単位認定の対象外とする。		
〔評価の基準及びスケール〕 A: 80 点以上 B: 70~79 点 C: 60~69 点 D: 50~59 点 E: 50 点未満		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は講義テキストに沿って進め、パワーポイントで適宜資料等を提示する。講義をしっかりと聞き、講義テキストをきちんと提出することが基本である。		
〔実務経歴〕 該当なし		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ:学校とは何か(教職概論を論ずる前提/学校の意義と役割について)</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における学校の意味 ・人間の生涯における学校の意味(生涯学習社会と学校)
第2回	<p>テーマ:教員の役割と期待される教師像</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員とは何か ・現代の教員の実態 ・期待される教師像とは
第3回	<p>テーマ:法制上の教員</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育関係法における教員の定義、位置づけ、身分、服務規程、勤務条件と職員団体等 ・教育委員会制度
第4回	<p>テーマ:教員養成制度</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員養成制度の仕組みと課題
第5回	<p>テーマ:学校制度と教員</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営と組織・管理、学級経営、校務分掌
第6回	<p>テーマ:学習指導</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領 ・授業における学習指導
第7回	<p>テーマ:特別活動</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の意義と内容
第8回	<p>テーマ:生徒指導</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の位置づけと原理
第9回	<p>テーマ:不登校への対応</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校をどうとらえるか ・定時制・通信制高校の現状
第10回	<p>テーマ:進路指導とキャリア教育</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導、キャリア教育の位置づけと原理
第11回	<p>テーマ:学校・家庭・地域の連携・協働</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の持つ意味 ・学校・家庭・地域の連携・協働の仕組み
第12回	<p>テーマ:学校における人権教育・学習</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育・学習の意義 ・指導方法
第13回	<p>テーマ:学校におけるボランティア活動</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会奉仕体験活動とボランティア活動 ・指導方法
第14回	<p>テーマ:学校における情報リテラシー教育</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー(メディアリテラシー)教育の意義 ・指導方法

第15回	テーマ:クリティカル・シンキングと参加型学習 内容: ・学校におけるクリティカル・シンキング ・学校における参加型学習
試験	レポート

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">教育心理学</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">教職科目(必修)</p>
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">鈴木郁生 SUZUKI Ikuo</p>	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に明示する 場所: 614 研究室	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義</p>
〔科目の概要〕 <p>教育心理学とは、教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から客観的に検討する学問である。本科目では、教育実践の基礎となる教育心理学の理論や知識について幅広く学んでいく。具体的には、発達、学習に関連する教育心理学の基礎領域について学ぶ。発達領域では、乳幼児から青年期までの心身の発達について、学習領域では人間の記憶や認知などの学習過程の基礎及び教授法について学ぶ。この授業を通して教育心理学の様々な内容に触れ、その知識を教育実践の場で効果的に役立てられるようになることを期待する。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本科目は教育職員免許法に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」であり、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」の事項に関わる科目である。教員免許取得のための必修科目として定められている。</p> <p>教育実践の場に立つためには、ただ教える教科の内容や技術だけを学ぶだけでは不十分である。そこで本科目において、その実践の支えとなるような理論、根拠となる知識について学ぶ。例えば、幼児・児童または生徒と向き合うためには、その年代の子どもの心身の発達についての知識が役に立つだろう。あるいは記憶や学習過程への理解は、子ども達の学習を効果的に支援するために必要となる。</p> <p>このように、本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>授業評価では、概ね肯定的な評価をしてもらっている。また教室環境に、より気を配っていくつもりである。</p>		
〔教科書〕 <p>使用しない。</p>		
〔指定図書〕 <p>なし。</p>		
〔参考書〕 <p>授業時に適宜紹介する。</p>		
〔前提科目〕 <p>なし。</p>		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <p>試験を行う。また授業中に適宜課題を課す。</p>		

〔評価の基準及びスケール〕

期末試験や課題等により、総合的に評価する。

- A: 100～80 点
- B: 79～70 点
- C: 69～60 点
- D: 59～50 点
- F: 49～ 0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教育心理学について、ただ知識として伝えるのではなく、そのような知見が得られた過程についても話していくつもりである。受講者は、用語や理論をただ暗記するのではなく、その根拠や研究過程についても理解するよう心掛けて欲しい。また受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってほしい。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション・教育心理学と研究法 内 容: 教育心理学の歴史や領域、研究法について学ぶ。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 発達段階と発達課題 内 容: 発達段階や発達課題など、生涯発達に関わる基礎的理論・概念について学ぶ。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 感覚知覚および運動に関する発達過程 内 容: 感覚知覚および運動に関する発達過程について学ぶ。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 言語および社会性に関する発達過程 内 容: 認知、思考に関するピアジェの発達理論の解説。感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期それぞれの特徴について概説する。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 知的側面にかかわる発達 内 容: 認知、思考に関するピアジェの発達理論の解説。感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期それぞれの特徴について概説する。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 道徳性の発達 内 容: 道徳性に関する発達心理学の知見について紹介する。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 青年期の発達の特徴と同一性 内 容: 青年期を取り巻く状況や青年期に生じる発達の特徴を通じ、青年期観を問題とする。 教科書・指定図書

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):学習理論(古典的条件づけ) 内 容:古典的条件付けを中心に学習理論を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):学習理論(オペラント条件付け) 内 容:オペラント条件付けをはじめとする学習理論について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):動機づけ 内 容:内発的動機づけと外発的動機づけについて学び、その関係についても解説する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):認知機能と学習 内 容:記憶・思考の基本的なメカニズム、および学習に関わる特性について紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):学習教授法 内 容:集中学習・分散学習や受容学習・発見学習など、学習や教授の方法および評価に関する考え方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):集団とその心理的特徴 内 容:集団規範やソシオメトリーなど学習集団に関する基礎的知識を理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会情緒的側面と学習 内 容:社会情緒的側面と学習について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育心理学の今日的課題 内 容:教育心理学における今日的な課題について論じる。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

<p>〔科目名〕 健康とスポーツ I</p>	<p>〔単位数〕 1単位</p>	<p>〔科目区分〕 アカデミック・ コモンベージックス</p>
<p>〔担当者〕 今村 秀司</p>	<p>〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:</p>	<p>〔授業方法〕 実技中心</p>
<p>〔科目の概要〕</p> <p>スポーツは心身の発達を促し、人間性を豊かにし健康で文化的な生活を営む上で極めて重要な役割を果たすものである。生涯にわたってスポーツの楽しさを享受し、健康や体力の維持増進を図っていくために広い視野からスポーツを選択し、自身の技術向上と基礎体力の充実を目指す。</p> <p>更に仲間と協力することにより、協調性と責任感を身につけ、心身の健康についても配慮できるようにする。</p> <p>そのために、多くの仲間と相手を変えながらゲームを展開するなど、より充実した活動を実践することにより、継続してスポーツ活動ができる能力や方法を身につけられるようにする。</p>		
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕</p> <p>スポーツは、人間の身体的・精神的欲求に応え、健康と体力を保持増進し、私達の人生を豊かで充実したものにしてくれる世界文化の一つです。「スポーツ」をすることは、単に趣味としての意味以外にも「健康と体力づくり」、「人づくり」、「仲間づくり」のための手段として価値があり、明るく活力のある社会の形成に大きく寄与する。ここに開講されるスポーツ実技は、スポーツの文化的側面を深く理解し、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたり健康な生活を営むことができるようになることを目指している。</p>		
<p>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</p> <p>受講生の経験・興味・関心・技術に応じて、主体的に各種のスポーツ種目を選択し、基本技術・応用技術を学びながらゲーム中心に学習する。実践に際しては、正式のルールをベースに、簡易ルールの採用も可とした攻防のゲームを行いながら、選択種目をさらに深く理解し、個々の技術向上と体力増進を図る。また、仲間づくりや集団生活における自他の再発見の場として、スポーツ活動の楽しさを体感する。</p>		
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>学生からの要望があればそのつど可能な限り対応して行きたい。これまで「授業評価」に基づき工夫・改善に努めてきたが今後も続けていきたい。</p>		
<p>〔教科書〕 なし</p>		
<p>〔指定図書〕 なし</p>		
<p>〔参考書〕 なし</p>		
<p>〔前提科目〕 なし</p>		
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p><u>選択したスポーツ種目の出席参加状況</u>、グループの一員としての役割分担、服装などの受講態度等を総合的に判断して評価する。また、スポーツ・体育実技の評価については、原則として次の基準によって行なう。</p> <p>① 運動の特性の理解度 ② 意欲・公正さ ③ 技術の習得度</p> <p>・平常評価 100点</p> <p><u>選択したスポーツ種目の出席参加状況</u>、及び、受講態度による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。</p>		

<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A:100～80 B:79～70 C:69～60 D:59～50 F:49点以下</p>
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動とは本来人間にとって大きな楽しみの一つであるが、基本的なルールや技術を身につけなければ楽しむレベルに到達することはできない。高校時代に厳しい部活動を経験してきた学生も多いと思われるが、別の視点にたつて運動に取り組ませたいと考える。学生諸君には、積極的に体を動かしよい汗をかくことをおおいに期待したい。 ・運動に適した服装とシューズで受講すること。(ワイシャツ、ジーンズ等は認めない。内靴外靴の区別をする。体育館内では内靴を厳守) ・コロナは下火になってはいるものの、用具・器具を共有することから手指の消毒を徹底すること。 ・マスク着用について、十分な呼吸ができなくなるリスク・熱中症になるリスクを考えて柔軟に使用。
<p>〔授業スケジュール〕</p> <p>授業の目標を達成するために、実践に必要な施設用具の整ったスポーツ種目(バレーボール・バスケットボール・バドミントン・卓球)の中から、受講生が主体的に選択したスポーツ種目をゲーム中心に実践する。</p> <p>また、準備運動・整理運動の重要性を理解させケガ防止の高揚に努める。なお、ゲーム中心に実践するので、施設の関係や受講者が少なくチーム編成できない場合は、実施種目を制限することがある。</p>
<p>〔実施内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ種目の選択、グルーピング、学習過程・安全についての説明。 ・各種スポーツ種目の基本技術の知識と練習、採用ルールの確認。 ・安全に身体運動、スポーツ活動を行うためのウォーミングアップとクーリングダウンを主体的に実践できるよう確認。 ・ゲーム分析・戦術などの検討をし、レベルアップした質の高い攻防のゲームを目指す。 ・グループでの役割分担、仲間としての責任感と協力心を培う。
<p>〔実施種目と内容〕</p> <p>テーマ(何を学ぶか): バレーボール 内容: 基本的な技術、ポジショニング等チーム内でゲームを通して学びながら、質の高い攻防のゲームを目指す。</p> <p>テーマ(何を学ぶか): バスケットボール 内容: 基本的な技術、ディフェンス・オフェンスにかかわる戦術についてチーム内でゲームを通して学びながら、質の高い攻防のゲームを目指す。</p> <p>テーマ(何を学ぶか): バドミントン 内容: 各種ストロークやフットワーク等の基本技術とゲーム展開のための応用技術・戦術を学び、ダブルス・シングルス<small>のゲーム</small>を通して質の高い攻防のゲームを目指す。</p> <p>テーマ(何を学ぶか): 卓球 内容: 基本的な技術を身に付け、ダブルス・シングルス<small>のゲーム</small>を通して応用技術の体得・戦術に工夫を加え質の高い攻防のゲームを目指す。</p>
<p>〔試験〕・平常評価 100点 出席状況、及び受講態度による評価。運動の特性の理解度、意欲・公正さ、技術の習得度に対する評価。</p>

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">教育行政論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p>	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 内海 隆 Uchiumi Takashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の授業の際に提示する。 場所: 504研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 教育行政(educational administration)とは、国民の教育の実現を保障するためのシステムであり、営みである。この講義では、学校教育との関係を中心に、教育行政の理念、組織、役割等について講義する。また、わが国の教育行政制度及び諸外国の教育制度等も概観するとともに、近年のコミュニティスクールなど学校と地域との連携による学校運営や学校の危機管理等についても取り扱う。 なお、教育行政に関する理解を深めるため、関連する法規を体系的に整理した資料を配付し解説も随時行う。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は、教育法規や教育制度、組織についての基礎となる科目であり、「教育原論」とともに基本となるものである。したがって、この科目を学ぶことにより、今日の教育のしくみや在り方を考えることにつながり、教育上の諸課題を探究していく姿勢を培うことになる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教育についての組織や制度に関する法的視点にたった基本的な理解を深め、それをベースに教育上の課題を自分なりに考えることによって、教職に関する関心や意欲等のモチベーションを持たせる。 特に、1) 近代公教育制度の成立との関連で教育行政の概念を理解する。 2) 文部科学省、教育委員会の組織と運営、及び学校の管理運営に関する法的根拠等を理解する。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教員自身の経験からも法規中心の授業展開だと興味のわかない内容になるので、教育に関する最低限の法令等も含めて整理したプリント(冊子、資料)等を提供する。		
〔教科書〕 使用しない。教員作成のプリント冊子を用いる。		
〔指定図書〕 『教育制度を支える教育行政』(アクティベート教育学5)、ミネルヴァ書房		
〔参考書〕 教職を志すのであれば、『教育小六法』(出版社は問わない)は携帯することが望ましい。		
〔前提科目〕 「教育原論」を履修しておくことが望ましい。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 教育に深い関心を持ってもらうため、指定テーマに関する個人発表(5分)と評価レポートを実施し、それぞれを2:8の割合で総合的に判断する。		
〔評価の基準及びスケール〕 レポートと授業での発表等を参考にし、下のスケールで総合評価する。 A: 100～80点 B: 79～70点 D: 69～60点 E: 59～50点 F: 49～ 0点		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教職課程の基本科目であることを十分認識した上で授業に臨むことを希望する。また、「教育基本法」を核にして必要最低限の法律(法規と条文)を覚えることが教育行政の理解の早道となる。 また、必要に応じ事前配布のプリント冊子とは別に資料等を配布するので、教職を強く希望する学生は、教育法規を中心に毎時の授業の予習と復習をしっかりとやって欲しい。		

〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:講義のねらい・方針と授業の進め方 教育行政(論)への接近(学ぶ意味)、教育と教育政策</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家の一般行政と内務行政 内 容:教育行政を成立させている要因</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):近代公教育制度と教育行政(1) 内 容:公教育制度の成立と理念</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):近代公教育制度と教育行政(2) 内 容:教育行政の発達と解釈論</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育制度と教育行政(1) 内 容:明治期の近代教育制度(「学制」とそれ以前、文部省下の教育行政制度</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育制度と教育行政(2) 内 容:現行の学校制度と教育行政、各種審議会</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):わが国の教育行政の特質 内 容:文部科学省と地方教育行政、教育行政に関する法改正の趣旨、地方公共団体の長と議会</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):諸外国の教育制度と教育行政(1) 内 容:欧米主要国(アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス)の学校制度と教育行政の概要</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):諸外国の教育制度と教育行政(2) 内 容:アジア諸国の学校制度と教育行政の概要</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):生涯学習行政の役割と今日的課題 内 容:社会教育と社会教育行政 生涯学習振興法と生涯学習行政</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):学校運営の法的根拠 内 容:職員会議、校長と教諭、主任制度、学校評議員制度 教育課程(カリキュラム)編成の主体、学習指導要録</p> <p>教科書・指定図書(教員作成のプリントほか)</p>

第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):教科用図書(教科書)と検定制度 内 容:教科書検定制度の経緯と補助教材</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育費と教育財政 内 容:教育費について 教育予算の成立過程</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育行政(=制度)の理論における教育権論争問題 内 容: 教育する権利(機能・権限)の意味(教義) 教育行政の責任(論)と住民自治</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育行政の整理 内 容: 法改正後の教育委員会(制度)のあり方、内的事項、外的事項ほか</p> <p>教科書・指定図書 (教員作成のプリントほか)</p>
試験	<p>実施しない。評価レポートを課す。</p>

〔科目名〕 特別活動指導法	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 友田 博文	〔オフィス・アワー〕 時間： 集中講義 場所：	〔授業の方法〕
<p>〔科目の概要〕</p> <p>特別活動は、生徒各人が様々な集団に所属しながら、そこでの集団活動を通して、自らの個性の伸長を図ったり、実際の社会生活において生きて働く社会性を身に付けたりするなど、生徒の人間形成を図る教育活動である。</p> <p>平成 30 年3月に告示された新しい高等学校学習指導要領における特別活動の改訂の趣旨や特別活動の目標を理解するとともに、特別活動の基本的な性格と教育的意義を理解する。</p>		
<p>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</p> <p>特別活動は、望ましい集団活動を通して、個人的な資質の育成をはじめ、多様な人間形成を構築する能力・態度、集団や社会の一員としての自覚のもとに所属集団や社会の充実・向上・発展に努める態度、人間としての生き方を探究し、自己を生かす能力や態度などの育成を目指しているものであり、今後高校教員免許を取得し、高校教員として高校生を教育するにあたって最も基礎的・基本的な教職科目である。</p>		
<p>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別活動は、生徒に「生きる力」を育むことを目指した学校全体の教育活動であることを理解できたか。 ・ 望ましい集団活動の展開と望ましい集団育成の理解やスキルを身につけたか。 ・ 特別活動論を通して個人的な資質の育成、社会的な資質の育成の仕方について理解を深めることができたか。 ・ 生徒の自主的、実践的な態度を育成する方法論を探究することができたか。 ・ 人間としての在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力の育成方法について理解を深めたか。 		
<p>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</p> <p>学生の授業評価については、毎回次の講義に生かしている。</p>		

<p>〔教科書〕 高等学校学習指導要領解説「特別活動編」及びオリジナル教材</p>
<p>〔指定図書〕 必要な時に提示</p>
<p>〔参考書〕 必要な時に提示</p>
<p>〔前提科目〕 なし</p>
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の中で、重要な事項についての課題レポートを書く。 ・ 内容の詳細については、特別活動の講義開始時に提示される。 ・ 講義終了時に講義全体についての理解度を測る総合的なテストを実施する。
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中の課題あるいはレポートを評価に加えることがある。 ・ 配点等は、担当の教員から提示される。
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の教員免許取得に必要な特別活動論は、高校生の人間形成において極めて重要な科目である。ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事などの集団活動を通して社会人になるために必要な資質・能力を身につけるものである。 ・ 受講する学生は、高校生活における特別活動を振り返り、理論や実践例を学び教職に生かしてほしい。
<p>〔実務経歴〕</p>

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の目標について</p> <p>内 容: 特別活動の改訂の趣旨、要点及び特別活動の目標</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の基本的な性格と教育的な意義について</p> <p>内 容: 特別活動の教育課程上の位置づけ、特別活動の教育的意義</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動の実践</p> <p>内 容: グループに分かれて高等学校における特別活動の各活動についてシミュレーションを行い、特別活動の目的・意義の理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 各活動・学校行事の目標と内容について その1</p> <p>内 容: ホームルーム活動、生徒会活動の目標・内容</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 各活動・学校行事の目標と内容について その2</p> <p>内 容: 学校行事の目標・内容、各活動を通したねらい</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 指導計画の作成と内容の取り扱いについて</p> <p>内 容: 特別活動の全体計画、配慮事項、特別活動における評価</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 特別活動をめぐる諸問題について</p> <p>内 容: これからの高等学校教育と特別活動</p> <p>教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 特別活動編</p>
試験	

〔科目名〕 憲法概論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目 (第2群)文化と社会
〔担当者〕 高橋 基樹	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義開始後に指示する。 場所: 講義開始後に指示する。	〔授業の方法〕 講義形式中心
〔科目の概要〕 <p>本授業では、私たちの「人権」を保障する法・法律である「憲法」を学び、基礎的な法的知識及び法的思考を身に着けることをねらいとして講義する。国家の基本法である「憲法」は、私たちの「人権」をよりよく保障するために、国家機関に権力を授け、かつそれが暴走しないように一定の制限を定めた法である。そのため、国民を縛るルールではなく、国家権力を縛るルールとして機能する。こうした憲法の意義を理解し、日本国憲法における適切な「人権」保障の在り方と、その保障のために存在する国家の統治機構の概要を学ぶことを通じて、国家と国民との関係について考えることの出来る能力を養成し、将来的な政治参画の意思を育む。そして日本における現代的かつ将来的な「人権」問題について捉え、どのように解決すべきかの方法を検討する機会も提供する。</p> <p>なお、一般に難解であると捉えられがちな「法学」および「憲法学」の講義であるが、具体的な裁判例や最近の身近な素材(書籍、雑誌、テレビニュース、新聞記事、インターネットなど)を利用して、理解を促すように工夫する予定である。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>昨今の日本では、国会の中で日本国憲法改正の議論がなされており、近い将来に私たち国民が、憲法第96条に規定された手続に従って、国会により提案された憲法改正案に対する国民投票に参加・投票する機会が訪れるかもしれない。この憲法改正の国民投票の際には、18歳参政権が制度化された現代において、大学生であっても重要な政治的判断を求められることになる。そして、こうした政治的判断を表明する際には、その基準として、憲法的な知識を身に着けたうえで参加する必要がある。加えて、日常的に行われる選挙参加(参政権の行使)についても同様である。そこで、憲法とはどのような法・法律であるのか、現在の日本国憲法において「人権」を保障するとはどういうことかについて学び、それについて考え、主権者として国家の政治に関わるための基礎力を養う機会を本科目で提供する。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>第一に、「憲法」という法・法律の意義と特徴を理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本国憲法に関する基礎的知識を習得し、日本国憲法の特徴および「立憲主義」の意味を理解する。 (2) 日本国憲法が保障する「人権」とは何なのかを理解し、その保障の意義を認識する。 (3) 日本国憲法に定められた、人権保障のために存在する統治機構の制度の意義を認識する。 (4) 憲法改正や安全保障などの最近の憲法をめぐる問題について関心をもち、憲法の知識・理解を通じて、自らその問題の是非を考え、検討する能力を習得する。 		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>本科目で取り扱う講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行う。これに対して例年の授業評価アンケートでは、理解が深められるとの肯定的な意見もある一方で、復習に割かれる時間が長く、講義内容の進行が遅いという指摘もあることが多い(これまでも同様であった)。そのため、理解の定着を促すための時間配分と、講義の進行状況を考えながら、今後は適切な講義を行うことに努めたい。また教員の声量等の問題への指摘も例年あるが、今後はできる限り履修者全員が授業内容を理解できるような声量および声の速度で講義を行うように心がけるようにする。なお、本科目は「憲法学」という抽象的な学問内容を取り上げて講義するため、科目の性質上、明快・簡潔な説明だけでなく、抽象的かつ難解な表現で説明されることもある。この点については、具体的な事例等を用いて、「憲法学」を具体的なイメージでも捉えられるような講義展開を行うように努める。</p>		
〔教科書〕 斎藤一久・堀口悟郎(編)『図録日本国憲法 第2版』(弘文堂、2021年)		
〔指定図書〕 講義中に紹介する。		
〔参考書〕 大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲『新憲法四重奏 第二版』(有信堂、2017年) 芦部信喜著(高橋和之補訂)『憲法 第7版』(岩波書店、2019年) 長谷部恭男・石川健二・宍戸常寿(編)『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第7版)』(有斐閣、2019年) など。上記以外は講義中に紹介する。		

<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 定期試験もしくはレポートの結果だけでなく、通常授業時における受講生の理解度なども評価対象として、総合的に評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 授業に対する取り組み姿勢および授業内での理解度把握のための提出物による評価(毎回の授業後に復習問題を提示する予定であり、全15回のうち数回、この復習問題の解答の提出を求める可能性があり、この正答率を評価の対象の一部とする可能性がある。)や期末定期試験もしくはレポートの成績に基づいて総合的に評価を行う。総合成績評価において、50%以上取得した者に対して単位認定する。なお上記の成績対象においては、憲法学に対する基礎的な知識を身につけ、理解ができているかどうかが主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有することができているかどうかは補足的な評価基準である。(※なおこの基準は、新型コロナウイルス対策等のための講義展開の変更に伴い、変更される場合がある。その場合は、その都度、新たな成績基準や成績評価方法に関する説明を行う予定である。)</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 授業内で取り上げる憲法をめぐるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考えているので、随時提案してもらいたい。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもって授業に臨むことを期待する。 また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス・法とは何か・憲法とは何か 内 容: 初回ガイダンスをかねて、法とは何か、憲法とは何かを考え、それぞれの意味を検討する。その際、キーワードとして「立憲主義」に言及し、この意味を探る。 教科書・指定図書 レジュメを配布予定。準備学習として、憲法とはどのような法律なのか、イメージをもって授業に臨むこと。</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 人権とは何か・人権保障のための裁判所 内 容: 人権とはいったいどのような性質を有する権利であるのかを確認し、日本国憲法に規定されている具体的な人権の内容を理解する。また人権保障のために存在し、機能すべき裁判所の役割も確認する。 教科書・指定図書 教科書「1 憲法とは何か」・「18 統治機構・総論」・「23 裁判所」・「24 司法権と憲法訴訟」</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本国憲法における人権保障の享有主体 内 容: 日本国憲法における人権保障の享有主体について、基本的人権の享有を定めた憲法11条等の主語が「国民」であることの意味を検討しながら講義し、日本国憲法は誰の人権保障を行っているのか検討する。 教科書・指定図書 教科書「2 人権の射程」</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権①(自己情報コントロール権) 内 容: 日本国憲法における人権保障の在り方の基本である「内在的制約原理」について理解する。そして、表現の自由の保障とプライバシーの権利の衝突を通じた人権保障の在り方の事例を紹介し、このプライバシーの権利が憲法のどの規定から保障されるべきかを検討する。 教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権②(生命に対する自由) 内 容: 人間の「幸福」をめぐる自由としての幸福追求権の保障とその限界について、生命の処分をめぐる事例「エホバの証人無断輸血事件」「東海大学安楽死事件」等を取り上げて講義する。 教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 法の下での平等と平等原則 内 容: 日本国憲法が保障する「法の下での平等」の意義について講義し、それが平等として一般にイメージされる「絶対的平等」とは異なり、「合理的差別」を認めるものであることを講義する。そして、「合理的差別」が認められる基準はどこにあるのかを探る。 教科書・指定図書 教科書「4 法の下での平等」</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):精神的自由①(内心の自由)</p> <p>内 容:各人の内心の自由について、なぜ保障すべきか、そしてどの範囲まで保障されるべきかについて、「君が代訴訟」「加持祈祷事件」「オウム真理教事件」等を取り上げて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「5 思想・良心の自由」・「6 信教の自由」</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):精神的自由②(表現の自由の優越)</p> <p>内 容:自身の思考を表に示す権利としての表現の自由が、なぜ重要な人権として保障されるべきかについて講義し、この自由の保障の重要性から「二重の基準論」と精神的自由の保障の在り方について説明する。また、表現の自由の保障の限界について、「チャタレイ事件」等の判例から導かれるわいせつ表現の規制、在日朝鮮・韓国人に対するヘイト・スピーチに対する立法による規制などとの関係から検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「7 表現の自由・総論」・「8 表現の自由・各論」</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済的自由(職業選択の自由・財産権)</p> <p>内 容:自身の生活設計に関わる経済的自由について講義する。具体的には、どのような方法で生計をたてるための金銭を獲得するかについて選択する職業選択の自由と獲得した金銭をどのように使用するかに関わる財産権の保障の内容についてである。そしてこの経済的自由に対する補償の限界について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「11 職業選択の自由」・「12 財産権」</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会権・生存権</p> <p>内 容:社会的・経済的弱者が「健康で文化的な最低限度の生活を営む」ために必要な権利とはどのような権利であるのかについて、「朝日訴訟」「堀木訴訟」等を通じて講義する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「13 生存権」</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):環境権・平和的生存権</p> <p>内 容:現代社会の中で、私たちが平和で安全にかつ安心して生活することができるために保障されるべき人権としての、環境権および平和的生存権について講義する。またこの回の講義では特に、現在の日本の改憲論争の中心となっている自衛のために自衛隊を有することと憲法第9条の関係性について明らかにした上で、平和的生存権とはどのような人権であるべきかについて考察する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「3 新しい人権」・「13 生存権」・「28 平和主義」</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):人身の自由</p> <p>内 容:日本国憲法に定められた「人身の自由」の保障のあり方について、日本の刑事事件と裁判制度の問題を取り上げて講義する。具体的には、法学上の重要な考えである「罪刑法定主義」の意味について考える。また、自身が刑事裁判の判断に裁判員として関わりうる裁判員制度の制度内容についても講義し、その問題点について考察する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「17 刑事手続上の権利」</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):国民主権</p> <p>内 容:日本国憲法に定められた「国民主権」の意味について、民主主義の実現との関係から講義し、特に現代日本において、主に選挙に基づく代表民主制と、憲法改正の国民投票における直接民主制といった民主主義体制を採用していることの意味について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「18 統治機構・総論」</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):選挙制度と参政権</p> <p>内 容:立法を担う国会議員を、選挙を通じて選択する権利である国民の参政権の保障と、日本における選挙制度が複雑な制度であることとの関係についての理解を促す講義を行う。加えて、参政権の実質的な保障と「一票の格差」の問題についても講義し、この是正方法について検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「16 参政権と選挙制度」</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):国会と内閣</p> <p>内 容:国家統治を担う機関として、立法権を有する国会と行政権を有する内閣の各権能について確認し、両者の権能の重複について、どのように分立されるべきかについて検討する。</p> <p>教科書・指定図書 教科書「19 国会」・「20 議院と議員」・「21 内閣」・「22 行政」</p>
試験	<p>定期試験(第1～15回の講義内容を範囲とした、記号選択式の問題+論述式の問題)</p> <p>もしくは課題レポートの提出</p>

〔科目名〕 <p style="text-align: center;">教育方法論</p>	〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2単位</p>	〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">教職科目(必修)</p>
〔担当者〕 <p style="text-align: center;">鈴木郁生 SUZUKI Ikuo</p>	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に明示する 場所: 614 研究室	〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義</p>
〔科目の概要〕 <p>教育方法論とは、子どもを教え育てるにあたっての方法、そしてその理論について検討する学問である。子どもは、自然にその周囲から学び成長するかもしれない。ただ、子ども達に「何を伝えるか」、「どのように教えるか」、「どう成長させるか」という問題は、深く検討すべきだろう。そこで本科目では、歴史的経緯も踏まえつつ、教育の方法について学ぶこととする。</p> <p>具体的には、教育方法に関わる思想、学習教授法に関わる理論と技術、学習に関わる認知(記憶、思考等)、学力と教育評価、教材と情報機器やマルチメディアといった内容について学習する。さらに授業実践についての理解を深める。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本科目は、教育職員免許法に定められた「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、特に「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」の事項に関わる科目である。そのため、教職課程の必修科目として定められている。</p> <p>教壇に立つには、ただ教える教科の知識を持つだけでは充分だとは言えない。教育方法について深い理解があつてこそ、授業設計にも幅が出来、自らの教授法を客観的に評価出来る。本科目で学ぶ内容は、教育の基礎として重要な意味合いを持っている。免許種別にかかわらず、学習に励んでもらいたい</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>本科目の中間目標は、これまでの教育方法に関する思想や教授法の基礎についての理解を深めることである。そして、最終的な到達目標は、教育評価等について学習した上で、学んだ知識を実践出来るようになることである。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>概ね良好な評価を頂いている。今後もさらなる改善に努めたい。</p>		
〔教科書〕 <p>なし。</p>		
〔指定図書〕 <p>なし。</p>		
〔参考書〕 <p>授業時に適宜紹介する。</p>		
〔前提科目〕 <p>なし。</p>		
学修の課題、評価の方法) (テスト、レポート等) <p>試験を実施する。また授業内で評価の対象となり得る課題を課す場合がある。</p>		

〔評価の基準及びスケール〕

期末試験や課題等により、総合的に評価する。

A: 100～80点

B: 79～70点

C: 69～60点

D: 59～50点

F: 49～0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

理論的な部分については、退屈に思えるかもしれない。ただ、そうした理論が実践にも結びつくものである。受講者の理解が進むよう、具体的な例を挙げながら授業を進める予定である。受講者も好奇心を持ち、自らの経験等に照らしながら学習を行ってほしい。

〔実務経歴〕

該当しない。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション・教育方法の基礎 内 容: 初回授業であるので、授業展開等について説明する。そして教育方法論の領域と基礎について解説する。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 教育方法に関する思想1(古代から近代初期) 内 容: コメニウスやルソーなど、近代の教育思想について学ぶ。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 教育方法に関する思想2(近代から現代) 内 容: 近代から現代にかけての教育思想を紹介し、思想の歴史的変遷について理解する。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 日本における教育方法の歴史 内 容: 日本の教育方法の歴史を、西洋の教育方法との関わりを踏まえつつ学習する。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 学習と認知のメカニズム1 内 容: 教育に関わる認知(記憶・思考等)の基礎について学ぶ。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 学習と認知のメカニズム2 内 容: 近年の心理学的知見から、教育に関わる認知(記憶・思考等)のメカニズムについて学習する。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 認知機能とその応用 内 容: 学習と教授法に関連した認知の機能と、その応用について論じる。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 学習を阻害する要因と熟達 内 容: 学習を阻害する要因について紹介し、熟達という現象についての理解を深める。 教科書・指定図書

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):学習方略と協同学習 内 容:学習方略や協同学習について理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):学力 内 容:学力に関する問題を議論し、学力に関する理解を深める。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育評価1(教育評価の種類) 内 容:知能やテスト理論に関する学習を通して、人を測定するということについて深く理解する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):教育評価2(テスト理論と作問法) 内 容:教育評価の種類やその理論について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):情報機器とマルチメディア 内 容:教育場面における情報機器の利用と、マルチメディアによる教材について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):授業デザイン 内 容:授業環境を含め、授業デザインについて学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):授業実践の方法 内 容:授業の体験を通して、教育方法の実践的理解を行う。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	

〔科目名〕 進路指導の理論と方法	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教職課程(必修科目)
〔担当者〕 渡部 靖之	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回の講義で連絡する 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義及び演習
〔科目の概要〕 教員にとって最も重要な職務の一つである進路指導について、その意義、内容、歴史等の理論的な整理をしたうえで、中学校、高等学校における進路指導の具体的な方法について講義する。 また、キャリア教育との関連についても考えることとする。 全編を通して、クリティカル・シンキングの考え方にに基づき、主体的に考えお互いに意見を交わすことにより、教員あるいは社会人として必要な能力を身に付けることを目指す。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 進路指導について学ぶ際に重要なのは、「キャリア教育」との関連である。本来、キャリア教育はすべての学校教育活動を通じて行われるべき「生き方・働き方教育」であるが、おおかたの学校現場では、進路指導における職業教育、職業指導に限定して捉えられているのが現状である。そうした問題点や課題の把握も含めて考える。 また、商業科の教員免許を取得する経営学科の学生は、秋学期に「職業指導」を必修科目として履修することになるので、その点を考慮して授業を展開する。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1 学校における進路指導の位置づけや意義を理解している。 2 進路指導とキャリア教育の関連性について理解している。 3 進路指導における生徒への対応のポイントを理解している。 3 進路指導計画作成の方法を理解している。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 —		
〔教科書〕 使用しない		
〔指定図書〕 使用しない		
〔参考書〕 講義の中で適宜紹介する		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎時、独自に作成する講義テキスト(簡易なレポート含む)を提出すること。 評価は、講義テキストの提出状況、記載内容及び試験(レポート)の結果を踏まえて行う。 欠席が全講義回数の1/3を超える場合は単位認定の対象外とする。		
〔評価の基準及びスケール〕 A: 80点以上 B: 70~79点 C: 60~69点 D: 50~59点 E: 50点未満		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は講義テキストに沿って進め、パワーポイントで適宜資料等を提示する。講義をしっかりと聞き、講義テキストをきちんと提出することが基本である。		
〔実務経歴〕 該当なし		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ:進路指導の意義</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における進路指導の位置づけ ・進路指導の内容 ・進路指導の歴史
第2回	<p>テーマ:キャリア教育と進路指導①</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育とは何か ・進路指導とキャリア教育の関係
第3回	<p>テーマ:キャリア教育と進路指導②</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるキャリア教育と進路指導の扱いの現状と課題
第4回	<p>テーマ:キャリア教育と進路指導③</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるキャリア教育と進路指導の扱いの現状と課題
第5回	<p>テーマ:職業をめぐる現状と職業観の育成</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用形態の変化と若者の就業実態 ・進路指導における職業観の育成
第6回	<p>テーマ:高等学校における進路指導</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校(普通科、職業学科)における進路指導の実際と課題 ・生徒への対応のポイント
第7回	<p>テーマ:定時制・通信制高等学校における進路指導</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制、通信制の高等学校における進路指導の実際と課題 ・生徒への対応のポイント
第8回	<p>テーマ:キャリアカウンセリングの方法</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセリングとは何か ・ロールプレイによるキャリアカウンセリングの体験
第9回	<p>テーマ:年間進路指導計画の作成①</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における年間進路指導計画の実際 ・指導計画の作成方法
第10回	<p>テーマ:年間進路指導計画の作成②</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の作成(グループによる演習)
第11回	<p>テーマ:年間進路指導計画の作成③</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間進路指導計画の発表と相互評価
第12回	<p>テーマ:ホームルームにおける進路指導計画の作成①</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームにおける進路指導計画の実際 ・指導計画の作成方法
第13回	<p>テーマ:ホームルームにおける進路指導計画の作成②</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の作成(グループによる演習)
第14回	<p>テーマ:ホームルームにおける進路指導計画の作成③</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームにおける進路指導計画の発表と相互評価

第15回	テーマ:クリティカル・シンキングと進路指導 内容: ・学校におけるクリティカル・シンキング ・進路指導におけるクリティカル・シンキング
試験	レポート

[科目名] 中等教科教育法（商業Ⅰ）	[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 砂場 孝一郎 sunaba koichiro	[オフィス・アワー] 時間：授業実施日の昼食時間 場所：5階 非常勤講師控え室	[授業の方法] 講義 演習
[科目の概要] <ul style="list-style-type: none"> 高等学校の教科「商業」の教師に必要な商業教育に関する法知識について学習するとともに、商業科教師として備えるべき教科の指導方法や指導技術について学習する。 春学期は、商業教育の理念、教育関連法規、教育課程の編成、教育方法などについての学習と、当該教科の指導能力の基礎を培うことを目的に、講義と演習を行う。 		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか] 1 2022年度から年次進行で実施される新高等学校学習指導要領は、生徒に「生きる力」を育むことを目標としている。具体的には、①生徒は何を理解しているか、そして何ができるか ②生徒は理解していることをどのように生かすか ③生徒はどのように社会と関わり、よりよい人生を送るか 以上3つの柱に目標を整理できる。 2 よって、以上の目標を達成するために「高校の商業科教師」を目指す学生は、この教科教育法の科目を学ぶことで、本学で別に修得するビジネスに関する専門科目の知識・技術を関係付けることができ、教師として授業を効果的・効率的に指導できる資質を養うことができる。 ・また、本科目を学ぶことによって、商業科教師の採用試験を受験するにあたっての基礎能力及び教育関連法令を身に付けられる。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 1 中間目標 ・商業教育の歴史的変遷を踏まえ、学習指導要領の内容、商業教育の現代的課題及び今後の方向性を理解させる。 ・商業教育が、現代においてどのような性格を持ち、効用があり、役割を果たしているかを理解させる。 2 最終目標 高校教育の教科「商業」を理解するとともに、適切に学習指導ができる教師としての資質を身に付けさせる。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <ul style="list-style-type: none"> これまでも学生の授業評価は、公正であり、客観性をもって実施した。よって、担当教員に対して板書内容や文字の丁寧さ、表現の方法などにも指摘があるので、留意したい。 また、学期の途中において、学生から授業への要望などを確認して、「実質のある授業」にして、学生自身の教養の向上に努めていきたい。 		
[教科書] 高等学校学習指導要領解説 商業編 …… 必ず購入すること（秋学期の教育法商業Ⅱでも利用） ビジネス基礎（実教出版・青島矢一）…… 〃 〃 新簿記（実教出版・安藤英義）…… 〃 〃 情報処理（実教出版・並木通男）…… 〃 〃		
[指定図書] 本大学の図書館は、高校教育及び高校教師採用に関連する月刊誌等が、十分に閲覧できる環境にあるため、学生には授業を通じて紹介していく。		
[参考書] 「商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 実教出版株式会社 ISBN 978-4-407-34457-8 2019年10月15日 初版		

<p>〔前提科目〕 必要な教職科目を修得または履修していること</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修の課題 ～ ①筆記小テスト ②授業への参加状況 (出席しただけでは履修したことにはならない) ③課題レポートの提出 ④模擬授業への取り組み姿勢等を、学修の課題 (項目) とする。 ・上記学修の内容を、つぎの3つの評価の観点に基づき、総合的に絶対評価 をする。 ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学修に取り組む態度 	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記小テスト、授業への参加状況、課題提出、模擬授業の実施等の学習意欲・学習態度等の質を事前に示している評価の観点に基づき、100点法で絶対評価する。 ・ 授業の中で課す課題レポートについては、学生が自分の意見を持つようとする意欲が評価の基準となる。 	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省は、2018年に高等学校学習指導要領を改訂し、2022年度から年次進行で実施することとしている。本年度は、その2年目である。よって、高校教員採用試験を初め、高校教育の全てが、この新高等学校学習指導要領に基づいて行われることに留意して欲しい。 ・ 授業では、青森県等の受験する県の実施要項を確認し、高等学校教育 特に、商業教育に対する 興味・関心を喚起するように務めて欲しい。 ・ 学生には、教員免許状取得のみを目的とするのではなく、教員採用試験の合格を目指して取り組んで欲しい。 	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>「該当なし」</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育(ビジネス)とは 内 容：1 商業科教員の資質 2 商業教育の動向 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料による</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 教育制度の概要 2 憲法、教育基本法、学校教育法等の法制度 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料による</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学校教育について 内 容：1 地方公務員法 2 教育公務員特例法 3 教育職員免許法 4 その他の法令 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 商業教育の変遷 2 商業教育の意義と必要性 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)：商業教育について 内 容：1 新学習指導要領 教科「商業」の概要説明 2 新学習指導要領 改訂のねらいの理解 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領 解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)：高等学校学習指導要領解説「商業編」の詳細 内容：1 教育課程編成の視点と原則 2 具体的な教育課程の編成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教員作成のレジュメ・資料による</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内容：1 基礎的科目(科目名：ビジネス基礎)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内容：1 マーケティング分野(科目名：マーケティング)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内容：1 マネジメント分野(科目名：ビジネス・マネジメント)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内容：1 会計分野(科目名：簿記)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)：教科「商業」の科目の説明 内容：1 ビジネス情報分野(科目名：情報処理)の目標と内容 2 模擬授業用の学習指導案の作成方法 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施 内容：1 基礎的科目(科目名：ビジネス基礎) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施 内容：1 会計分野(科目名：簿記) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)：学生による模擬授業の実施 内容：1 ビジネス情報分野(科目名：情報処理) 2 学生による模擬授業 3 授業指導案の出来映え・模擬授業の合評会 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)：春学期のまとめ、小テスト 内容：1 新学習指導要領の目標と商業教育の方向性の確認 2 小テスト 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説「商業編」、教科書</p>
試験	<p>第15回授業の中で、まとめを目的とした筆記小テストを実施する。</p>

[科目名] 商業実習	[単位数] 4単位	[科目区分] 教職課程
[担当者] 砂場 孝一郎 Sunaba koitiro	[オフィス・アワー] 時間：授業実施日の 昼食時間は対応可能 場所：5階の非常勤講師控え室	[授業の方法] 講義 演習
<p>[科目の概要]</p> <p>この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。そして、受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学ぶことを希望する。授業内容は、受講生諸君が教師として、高校生を商業に関する「将来のスペシャリスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるものである。</p> <p>受講する学生は、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養などにも配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。</p> <p>文部科学省は、2018年に、2022年度から年次進行で実施する新高等学校学習指導要領の改訂版を発表した。本年度はその2年目である。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する ②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する ③道徳教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する の3点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実施しなければならない。</p> <p>この新しい商業教育の内容・方向性を中心に、受講する学生に伝えていきたい。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか]</p> <p>高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。</p> <p>商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、年々多様化してきている。</p> <p>このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。</p> <p>また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育法規をもとに商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要がある。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>商業科教師には、次の3つのことが求められ、この科目の目標とする。</p> <p>① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための指導力が求められる。</p> <p>② 次に商業科教師には、高校生を望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成する、人としての資質が求められる。</p> <p>以上2つの資質を身につけることが、この科目の中間目標である。</p> <p>③ そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。</p> <p>この資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <p>学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。</p> <p>学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法 商業Ⅰ・商業Ⅱ」での模擬授業等に生かされることが、この科目の目標の一つでもある。また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本となる。これまでの評価内容を授業改善に生かしていきたい。</p>		

〔教科書〕	
購入は不要である。必要に応じて、商業、経済に関する資料、新学習指導要領等の資料を配賦する。	
〔指定図書〕	
「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編 実教出版	
〔参考書〕	
なし。	
〔前提科目〕	
なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。 評価の方法は、①課題のレポート提出(2回予定)、②筆記小テスト(授業内で2度予定)、③プレゼンテーションの実施、④授業の履修態度を通して、学習意欲の有無・目標への到達度を判断し、絶対評価(100点法)で行う。 (因みに、授業に出席さえすれば単位認定されるとは限らない。) そして、それを本学の定める評定方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。	
〔評価の基準及びスケール〕	
評価基準は、本学が定めている評定方法に従って行う。基準とスケールは次の通りである。 A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(50点以上) F(50点未満) 評価の観点は、①知識・技能 ②思考・判断・表現の各能力 ③学修に取り組む姿勢である。 数値化の難しい観点もあるが、教職課程の科目であることから、敢えて観点としたい。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
文部科学省は、2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領を公表・実施した。そのために、担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、新要領の商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。 なお、学生が授業を欠席する際の授業担当者への連絡は、原則として求めない。	
〔実務経歴〕	
該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション 内 容：講義の目的と内容、進め方、評価の方法について 教員作成のレジュメ、資料による
第2回	テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容：売買条件(商品の品質・数量・価格) 教員作成のレジュメ、資料による
第3回	テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容：売買条件(受け渡し時期・受け渡し場所・代金の受払方法) 教員作成のレジュメ、資料による
第4回	テーマ(何を学ぶか)：売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内 容：売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務 教員作成のレジュメ、資料による

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 売買取引の方法(関連法規と商慣習)</p> <p>内 容： 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 売買取引の方法(関連法規と商慣習)</p> <p>内 容： 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の廃止</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 度量衡・外国貨幣・割合、外国為替の基本</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネス計算の基礎</p> <p>内 容： 利息の計算・日数計算</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： ビジネスに対する心構え</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか)： ビジネスとコミュニケーション</p> <p>内 容： 人間関係の重要性 ※筆記小テスト(1回目)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 企業活動の基礎</p> <p>内 容： 企業の形態と経営組織(1)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか)： 企業活動の基礎</p> <p>内 容： 企業の形態と経営組織(2)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>

第18回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内 容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内 容 : 企業活動と税</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内 容 : 雇 用(働き方改革・労働関連法令)</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 経済社会と法 内 容 : 法の意義と役割</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内 容 : 権利と義務、物権と債権 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内 容 : 知的財産権 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内 容 : 契約と意思表示、売買契約と賃借契約</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内 容 : 債権の管理と回収、金融取引</p> <p>教員作成のレジュメ、資料による</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内 容 : 法令遵守、紛争の予防と解決 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内 容 : 消費者保護 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題 内 容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 新学習指導要領の内容と商業教育の方向性について 教員作成のレジュメ、資料による</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには 内 容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方 ※筆記小テスト(2度目) 教員作成のレジュメ、資料による</p>
試 験	<p>授業の中で、筆記小テストを2度 実施。(1度目は第15回の授業の中・2度目は第30回 の授業の中)。</p>

[科目名] 中等教科教育法 (公民I)		[単位数] 2単位	[科目区分]
[担当者] 長谷川 光治	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] ②
[科目の概要] 高等学校「公民」の、目的と目標、教育課程における位置づけと役割、教科構造の特質と理念、各科目の目標と内容構成について理解を深め、指導計画の作成、教材研究方法、指導案作成、模擬授業を、体験的、課題解決的に学び、教育現場における「公民」の実践的な教科指導力を養う。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け] 教養科目 1群～3群の各科目が、「公民」の教材研究、発掘・作成に関連する。 [なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか] 高等学校「公民」の教科指導に必要となる、授業の組み立てや学習指導案作成の実践力につなげるための、視点・知識の基盤となる。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] (1) 公民教育の意義と公民科の目標、学習内容を理解する。 (2) 教材研究の重要性を理解し、教材の発掘作成を実践する。 (3) 学習指導案を作成し、模擬授業を行う。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]			
[教科書] 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編 文部科学省 (東京書籍 1,000円+税)			
[指定図書]			
[参考書]			
[前提科目] 「教育原理」「教育課程論」「教育心理学」「教育方法論」			
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 教材の発掘事例、指導案の作成、模擬授業、「分析・考察シート」、「自己評価シート」、課題レポート、課題作成と発表、発表課題についての相互評価と自己評価、出席状況を総合評価。			
[評価の基準及びスケール] 指導案・模擬授業・「模擬授業分析・考察シート」・「模擬授業自己評価シート」・課題レポートを総合的に評価。 (A:100～80 B:79～70 C:69～60 D:59～50 E:49～0)			
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] 「公民」の授業者となって教壇にあがることを意識し、授業に取り組むことを望みます。			
[実務経歴] 該当なし。			

授業スケジュール	
第1回	テーマ (何を学ぶか) : オリエンテーション 内 容 : 学習目標と内容の確認、学習の進め方、「公民」教育について 教科書・指定図書 教員作成のプリントによる
第2回	テーマ (何を学ぶか) : 「公民」教育の意義と学習指導要領 ① 内 容 : 公民教育の意義と学習指導要領 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第3回	テーマ (何を学ぶか) : 「公民」教育の意義と学習指導要領 ② 内 容 : 学習指導要領の変遷、社会科と公民科 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第4回	テーマ (何を学ぶか) : 公民科の目標と教科構造 内 容 : 公民科の目標と教科構造 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第5回	テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ① 内 容 : 情報機材の活用と、題材の発掘 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第6回	テーマ (何を学ぶか) : 高等学校教育課程と公民科 内 容 : 教育課程の編成と公民科 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第7回	テーマ (何を学ぶか) : 公民科各科目の学習内容 ① 内 容 : 「公共」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第8回	テーマ (何を学ぶか) : 公民科各科目の学習内容 ② 内 容 : 「倫理」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第9回	テーマ (何を学ぶか) : 公民科各科目の学習内容 ③ 内 容 : 「政治・経済」の科目の性格、目標、内容とその取り扱い。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第10回	テーマ (何を学ぶか) : 学習評価 内 容 : 学習評価の意義と目的、観点別学習評価 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成資料
第11回	テーマ (何を学ぶか) : 指導計画と学習評価 内 容 : 指導計画の作成と指導上の配慮事項。 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第12回	テーマ (何を学ぶか) : 教材研究と授業研究 ① 内 容 : 教材研究のあり方 (科学研究と教材研究)、研修のあり方 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第13回	テーマ (何を学ぶか) : 教材研究と授業研究 ② 内 容 : 学習指導案の事例と作成 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第14回	テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ② 内 容 : 題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
第15回	テーマ (何を学ぶか) : 授業研究 ③ 内 容 : 題材の発掘と教科書の活用、情報機材の活用 教科書・指定図書 高等学校学習指導要領解説 教員作成のプリントによる
試験	課題レポート

〔科目名〕 教育実習事前事後指導	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆 Suzuki Ikuo・Uchiumi Takashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業時に提示する。 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 春学期に開講する教育実習事前指導は、教育実習で必要とされる基礎・基本の理解を中心に、実習教科の学習指導案(授業案)の作成および板書指導も含めた模擬授業を通して実践的な指導を行う。 教育実習後の事後指導では、学校組織や生徒理解に努め、学習指導や生徒指導、特別活動の指導等に無理なく取り組むことができたかなどについて実習報告の形式で総括し、「教職実践演習」につなげる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 実習校での教育実習(2週間又は3週間)を経験することによって、高等学校の現場を理解するとともに自らの教師としての適性等も考えることにつながる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教職課程の最終段階となる「教育実習」に臨むにあたって、学校の組織・運営や生徒指導および教科・科目を中心とした学習指導などの基礎・基本を確実におさえる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 正規の授業回数の中で効果的な教育実習の事前・事後指導となるように努めるが、要望があれば応える。		
〔教科書〕 本学所定の『教育実習の手引き』、『教育実習日誌』のほか必要な資料を随時配布する。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 必要に応じて提示する。		
〔前提科目〕 3年次までの教職専門教科及び「中等教科教育法(商業Ⅰ・Ⅱ)」、「中等教科教育法(公民Ⅰ・Ⅱ)」、「商業実習」		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 事前指導(模擬授業等、レポート)及び事後指導(実習報告発表、所定様式のレポート)、教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌などをもとに総合的に判断する。 なお、実際の評価にあたっては、2人の専任教員による。		
〔評価の基準及びスケール〕 A:100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0点		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本学の「教育実習」は、高等学校の教員免許取得を前提に、4年次に学内で行う事前指導と事後指導を内容とする本科目と、実際に学校現場に出向いて行う実践的な「教育実習」からなる。したがって、教育実習に臨む者は、事前に教育実習の意義と目的、内容等の理解に努めるとともに、実習を効果的かつ充実したものにするための準備を十分に行っておくことが大切である。なお、実習校における教育実習終了後の事後指導としての実習報告も重視する。		
〔実務経歴〕 該当なし。		

授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導① 内 容:教育実習の目的と意義、教育実習の留意点</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』)</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導② 内 容:授業参観の方法と教材研究 『教育実習日誌』について</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』ほか)</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導③ 内 容:学習指導案作成と教材研究、板書計画、実習ビデオ鑑賞</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』、ビデオ視聴)</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導④ 内 容:学習指導案作成と模擬授業(1)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):事前指導⑤ 内 容: 学習指導案作成と模擬授業(2)</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習の手引き』、『学習指導要領』ほか)</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導① 内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):事後指導② 内 容:教育実習アンケート調査、教育実習報告、教育実習報告書作成・提出</p> <p>教科書・指定図書 (『教育実習日誌』ほか)</p>
試験	<p>実施しない。各自が実習の報告と指定様式の「教育実習報告書」を提出する。</p>

〔科目名〕 教育実習	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkakashi	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 実習
〔科目の概要〕 実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関するもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教職への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限り少なくするように配慮する。		
〔教科書〕 なし。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 なし。		
〔前提科目〕 「教育実習事前事後指導」		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の2名の専任教員による。 なお、新型コロナウイルス感染防止の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。		
〔評価の基準及びスケール〕 A:100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49～ 0点		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえて実習に臨むことを期待している。また、実習期間中は、新型コロナ禍であることを配慮しつつ実習校と連絡をとり、実習の成果が上がるように努める。		
〔実務経歴〕 該当なし。		
授業スケジュール		
実習期間 (2～3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「授業及び研究授業」等を行う。	